

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会会報(Der Wind)

VOL. 13. NO. 1. 通巻74. 発行 2011.1.9.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0025 藤沢市鶴沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

年頭の挨拶

湘南日独協会会長 織田 正雄

いよいよ日独交流150周年も佳境に入りました。2010年10月16日に横浜の独逸学園で150周年記念行事開会式が行われましたが、これから国内各地で記念行事が行われようとしています。

1月24日は150年前にプロシヤのオイレンブルグ侯が江戸で修交条約に署名をした日で、日独修交のもっとも記念すべき日であります。盛大な記念式がドイツ大使の指揮で「つれられることになっています。

10月末には最終行事として横浜大根橋にドイツの大型客船が来て、大掛かりな閉会式を行う予定です。

湘南日独協会も5月9日に鎌倉芸術館で記念コンサートを企画して居り、これには鎌倉市も応援しています。

また11月には鎌倉と協力関係にあるドイツのワイマール市から訪日団が来ます。協会は鎌倉での歓迎会を検討しているところです。

更に鎌倉市は8月に少年団を日独友好使節としてワイマール市に送る計画を立てており、協会が計画の段階からこれを応援します。

4月頃駐日ドイツ大使から全国59の日独協会に希望に応じてドイツの木である菩提樹の苗木が寄贈されますので、協会では3本いただいて、鎌倉と藤沢市のしかるべきところで植樹式を行う予定です。

これらの行事を通じて地域の方々のドイツへの関心を高め、ドイツとの交流が活発になることを期待するものです。

♪♪ 「日独音楽家の集い」

湘南日独協会主催日独交流150周年記念演奏会

2011年5月9日(月) 鎌倉芸術館 18時30分開演
出演者：

有希マヌエラ・ヤンケ (ヴァイオリン)

歩マノン・ヤンケ (ピアノ)

(二人は日本人の母と独逸人の父を持ち、数々の国際的賞を受賞し活躍中の若手の音楽家)

梶井龍太郎 (テノール)

首藤亜紀 (ピアノ)

楠山裕子 (ピアノ伴奏)

梶井智子指揮湘南日独協会混声合唱団アムゼル

詳細は今回の折り込みのチラシをご覧ください。

なお、湘南日独協会主催催し物としては従来にはない規模のとなっています。是非皆様のご支援ご協力を頂き成功させたいと願っております。

♪♪

湘南日独協会の活動予定

■ 第12回定例総会開催

日時 1月23日(日) 15:30～16:00

会場 江ノ電第2ビル7階

議題：平成12年事業報告並びに決算

平成13年事業計画並びに予算

理事改選 他

(なお、当日例会終了後同じ会場で総会となります)

■ 73会例会

日時 1月23日(日) 13:30～15:30

講師 ペアーテ・フォン・デア・オステン女史

(在日ドイツ連邦共和国大使館 通訳・翻訳部長)

「日独外交通訳の現場からーその苦しみと楽しさー」

会場 江ノ電第2ビル7階

会費 1,000円

■ 2月懇話会

日時 2月26日(土) 18:00～19:30

講師 吉田克彦氏 当協会理事

「湘南日独協会発足の頃」

当協会発足の契機とその後の発展の歴史を発起人として、その後は事務局として支えてこられた講師が多くの資料を駆使しての興味深い講演です

会場 江ノ電第2ビル7階

会費 1,000円

■ 4月14日(木)

独日協会会員約60名がドイツから来訪、横浜鎌倉観光と湘南、横浜の日独協会会員との交流会を開催

■ 4月24日 全国日独協会連合会総会 (奈良)

25日 日独交流150周年記念式典 (奈良)

奈良での総会、式典に関心をお持ちの方は事務局または能登(045-633-8717)迄お問い合わせください。

ドイツ語講座に入門クラスを

4月からのドイツ語講座前期(4月～9月)の募集を開始します。今回は、現在の初級、中級クラスに加えてご要望の声が寄せられている入門クラスの新設を検討しております。その為には4名以上の受講希望者が必要となります。ドイツ語に初めての方、もう一度基礎からとお考えの方はどうぞお問い合わせください。お申し込みお問い合わせは以下にお願いします。

松野 Tel 0467-32-7300 Fax0467-32-7387

Ee-Mail matsunoy@kamakuranet.ne.jp

鶴沼あれこれ

会員 岩崎 英二郎



まった(第二部、第二幕、実験室の場面)。

鶴などという文字を用いた例は、本会の会員も何人か住んでおられるあの鶴沼しか思い浮かばないので、あの鶴沼はもしかして「白鳥の沼」だったのではあるまいかと、ふと思い付くままに手元の『日本国語大辞典』(小学館)の「くぐい」(旧仮名遣いでは「くぐひ」)の項を引いてみると、はたせるかな、(その鳴き声から。「くぐい」とも)「はくちょう」の古名、と記されていた。そう言えば藤沢や深沢の「沢」も「沼」と大いに関係がある、むかしあのあたりは一面「沼沢地」だったにちがいないなどと遠く思いを馳せながら、そのときは鬼の首でも取ったように嬉しかったのだが、そのようなことは先刻御承知、という会員も少なからずおられることだろう。現に鶴沼の故事に詳しいというさる御仁に電話をかけて尋ねてみたところ、そんなことは当たり前でしょうと、軽くなされてしまった。

ついでに鶴沼に関係のある話をもう一つ。かの西行法師(1118-1190)に

心なき身にも あはれは知られけり

鳴立つ沢の 秋の夕暮れ

というすばらしい歌のあることは、あまりにも有名だが、問題は鳴(しぎ)の飛び立ったこの「沢」がどこにあったか、ということである。鎌倉時代に書かれたという『西行物語』からこの箇所を引用しよう。

「相模国大庭(おほば)といふ所、砥上原(とがみがはら)を過ぐるに、野原の霧の隙(ひま)より、風に誘はれ、鹿の鳴く声聞えければ、

えは迷(まど)ふ葛(くず)の繁みに妻籠めて

砥上原に雄鹿鳴くなり

その夕暮方(がた)に、沢辺の鳴、飛び立つ音しければ、

心なき身にもあはれは知られけり鳴立つ沢 秋の夕暮れ」

この「相模国大庭といふ所、砥上原」について、『西行物語』全訳註(講談社学術文庫497)の著者である桑原博史氏は、「現在の神奈川県藤沢市鶴沼付近。片瀬川西岸の原野」と断言しておられる。鶴沼ではなく、神奈川県大磯のあたりとする異説もあるが、それはともかく、いまから800年以上前に西行法師が、当時は原野であり沼沢地でもあった鶴沼を訪れてこの歌を詠んだのかとか、あの頃の鶴沼には鹿が住んでいたのかなどと、あれこれ想像してみるのも楽しいではないか。

ところで鶴沼海岸に住んでいたことのある作家阿部昭氏に『沼』という作品のあることを御存知だろうか。「このあたりは、昔、くぐひぬま、と言ったらしい。くぐひ、すなわち鶴(くぐい)で、白鳥のことだそうさ」という出だしで始まる小説だが、白鳥云々は冒頭のお飾りのようなもので、『沼』という題名がずばり示しているように、主人公の少年にとって、沼とい

う言葉が暗示するさまざまなもの、何となく不気味なもの、おぞましいもの、そういったものを作者は描きたかったように思えてならない。興味をもたれる方々にはぜひ御一読をおすすめしたい。

話は西行法師の「心なき身にも」の歌に戻るが、800年以上前に詠まれたこの歌の意味を、現在のわれわれが大した困難もなしに理解できるということ、いや、それよりも、その歌の情感が、そのままの形でわれわれに切々と訴えかけてくるというのは、じつに素晴らしいことだと思う。これがヨーロッパであれば、とてもそうはいかない。たとえば筆者の専門とするドイツ語の場合、いまから800年前、つまり12世紀の作品と言え、さしずめあの『ニーベルンゲンの歌』が頭に浮かぶが、いまのドイツ人で、たとえ大学を出たインテリであっても、ドイツ語学やドイツ文学を専攻したいわゆるゲルマニストでないかぎり、『ニーベルンゲンの歌』をすらすら読める者などほとんどいないだろう。季節は秋から春に移るが、同じ西行法師の詠んだ

願わくは 花の下にて春死なむ

そのきさらぎの 望月のころ

を愛誦する人も多いはずだ。日本人はしあわせだとつくづく思う。このようなしあわせも、小学校や中学校で国語をしっかりと学んできたからこそ得られたもの、小学校への英語教育導入など、ばかげたことはやめにしてもらいたいものだ。

新入会員紹介 (敬称略)

浜田 泰 工藤 真理子

仙石 芙蓉 三浦ハンナ

全国日独協会連合会ニューズレター (Nr. 43) より

今回のDer Windの1頁(表紙の活動予定)に記載の奈良における連合会総会の他に次のような連絡があります。

「日独関係を見直す八分野の論文交換」

交流150周年を機に日独関係を見直す以下の八分野の論文交換に関心を持ち、ドイツからの論文に応じる論文を書いて下さる方を募集しています。

序論 芸術・文化 学術 技術 政治 日独相互のイメージ
歴史 両国の協力・共同作業

JDG(全国日独協会連合会)事務局 jdg@jdg.or.jp 宛て1月末締めきりの予定につきお急ぎ下さい。

東京ドイツ村駅伝 1月27日(土)

2011年ジャパンウィーク参加者募集

11月5~11日に開催予定のフランクフルトでのジャパンウィークへの参加団体を募集

慈善コンサートのソリスト募集

バンムジカオーストリア音楽振興協会では、8月9日ウィーンでのチャリティー音楽会のソリストを募集

なでしこジャパン(女子ワールドカップドイツ大会)の日程 (インターネット全国日独協会検索下さい)

第72回例会

「ベルリンの壁崩壊の前後一年の記録」
の講演に参加して

会員 昔農 英夫



(講演会場の筆者 - 前列 -)

11月21日(日)夕刻の例会会場は多くの参加者が詰めかけ、期待と熱気で満ちていた。当日は当会会長、織田正雄講師による「ベルリンの壁崩壊の前後一年の記録」と題する興味深い内容であった。参加者はドイツとの関わりを持った方、も多いと思われるが、ベルリンの壁崩壊という現代史の大事件に何らか、個々人それぞれの立場で係った体験を思い、これから始まる内容に期待と感慨を抱いていたのが熱気の要因に相違ない。団塊の世代に属する報告者もその一人である。現代史に影響した出来事で強く心に残っているのは：キューバ危機、アポロの月面着陸、ベトナム戦争、ケネディ兄弟・キング牧師の暗殺、ソ連軍のブラハ制圧、大学紛争、ジョン・レノンの死、日本企業の大躍進と貿易摩擦、ソ連崩壊、冷戦終結、アパルトヘイトの終焉、リオサミット、天安門事件、9.11等々であるが、ベルリンの壁崩壊と東西ドイツの統合も間違いなくそのひとつに数えられる。

1989年にハンガリー／オーストリア国境の部分的開放で始まった東ドイツ国民の西への脱出は、思い出すに、気づかないうちに鉄のカーテンに開いた小さな穴がまたたく間に拡がり、もはや押し戻すことの出来ない大きな潮流となって一気に進んだ感がある。正に、何がどうなっているのか判らない、ニュースに触れても進展が急であれよあれよの間の出来事との感があった。織田講師は長くベルリンに滞在し、89年11月9日夜に起こった東西ベルリンを隔てていた壁の事実上の開放を喜ぶ市民と同じ空気を吸い、目撃された。“Eine Volk sprengt seine Mauern”と題する映像記録を見ながら生々しく当時の体験を語り、会場にベルリンの興奮を見事に再現された。映像ナレーションはドイツ語ゆえに、内容は講師の事前説明、たまに理解できた単語と画面の様子から想像たくましく推測するしかなかったが、壁崩壊に至る89年春からのハンガリー、チェコ、旧東ドイツでの一連の出来事と、ベルリンの壁開放の興奮が迫力をもって感じられた。

報告者は未だベルリンを訪れたことはない。しかし、ソ連崩壊後日が浅い時期に旧ソ連邦のラトビアを訪れる機会があった。ストックホルムから短時間の飛行で到着したリガはスカンジナビア諸国とは全く様相を異にしていた。学生時代に授業でLuise Rinserという作家のHeimkehrという読本を用い、作品中のRigaが妙に記憶に残っていた。理由は、ドイツ語の単位を落とした苦い経験ゆえであるが、懐かしい気持ちを抱いた訪問だった。

リガの旧市街は、ハンザ都市の雰囲気を残し美しい景観を保っていた。しかし、コメコン分業体制下での電機の生産拠点で、体制内では先進地域のはずのラトビアは経済的に疲弊し、街角では、金髪・碧眼の物乞いや、恐らく代々受け継いできたアイコンを売って糧を得ようとする人々に驚かされた。旧市街を一步出ると、ソ連風の無機質な建造物が存在感を示していた。恐らくソ連による占領という不幸を経験しなければ、他の北欧諸国と同じく自由と繁栄した社会を実現していたに違いない。全体主義はまさに犯罪だとの気持ちを再確認した訪問だった。

ベルリンで20年前に、移動を含む当然の自由を突然手にし、涙して歓喜する人々の姿を目の当たりにし、リガの想い出を重ね感慨を新たにした記憶に残る例会であった。

♪♪ 2010年の望年会を楽しむ ♪♪

会員 秋山 友一



(家族と筆者)

12月4日、ノカ テーブルに於いて開催された2010年の望年会に参加しました。先ず申し上げたいのは経験と知識に溢れた素晴らしい方々との歓談の時間は私にとって非常に貴重な経験となったということです。漫然と日々を送っていれば間違いなく知り合うことの出来ないような方々の金言を聞けるというのもこの湘南日独協会の会員である特典と感じました。

約2時間の会は歌あり、酒あり、美味しい料理ありの夢のような時間でした。特に私にとって感激であった点は、(当り前ですが)ドイツという国で心が繋がった皆さんとの歓談でした。ドイツ語の歌も普段歌う機会が無く興味深く楽しいものでしたし、ドイツ語や西洋史に精通された方も多く時間が短く感じられた。ドイツ人とのドイツ語での会話は約4年前よりドイツ語を学んでいる私にとって非常に貴重な腕試し、さらに4来月(1月)の独検面接の予行練習をすることが出来ました。

司会進行や歌の指揮をそしてこの会を準備運営された方々の心遣いは素晴らしいものでありました。この2010年は私が参加している横須賀ドイツ語サークルのクリスマスパーティーの幹事を務めることになっており大いに参考になりました。

2011年は更に湘南日独協会に積極的に参加しドイツ語だけでなくドイツ文化や歴史に触れたいと思っております。繰返しではありますがこの協会の会員である事は私の喜びです。

会員の皆様、お身体に気を付けて新年も更に日独の友好に尽力しましょう！誠にありがとうございました。

私とドイツ (4)

「ほたるのこみち」

林 永子 (会員 林孝司夫人)



(ほたるのこみちの店内の筆者)

“Guten Tag!” 鎌倉の寿福寺前にある“ほたるのこみち”(Gluehwurmchenweg)は甘さを控えた大きなドイツケーキのお店です。名前はStuttgartでの住所を訳したものです。

私が初めてケーキを焼いたのは1979年から1986年までStuttgartに住んだ時でした。先乗りしてドイツで生活を始めた主人の元に、4歳と2歳の子供を連れて転居したのは79年の夏の事です。Stuttgart空港に着いたのは既に夜で、迎えに来てくれた主人の運転で、霧と橙色の常夜灯に照らされた寒々とした道を、これから生活するドイツの家に向かいました。なんだか不安な気持ちになったのを覚えています。その年は冷夏で、寒くて、夏なのに早速セーターをKaufhofで買う羽目となりました。毎日、冷たい雨が降るばかりで夏は何処にもありません。湘南から来た私にはとても我慢が出来ず、ドイツに着いて10日目に主人にせがんでマジョルカ島に休暇に連れて行って貰い、やっと、一息つきました。

そんなドイツの生活を救ってくれたのがお菓子作りです。同じWohnungに住む、2階のお婆ちゃんと、主人の会社の社長のお母さま、それにそのお隣の学校の先生がドイツ語も判らない私に親切に手取り足取り教えて下さいました。日本も昔はそうだったと思いますが、ドイツでは家庭の手作りのお菓子が、春夏秋冬の季節の暮らしと密着して今も生きています。例えば、冬の季節で言いますと：

11月中旬になると、クリスマスの準備でStollen (シュトレン) を焼きます。すぐに食べずに2-3週間、地下室に寝かしておくくとクリスマスの時に味がしみ込んでおいしくなります。

12月に入るとWeihnachtsplaetzchen (クリスマスクッキー) を沢山作り、きれいな袋に入れてプレゼントと一緒にクリスマスに親しい人に贈ります。

1月6日の夜、教会から青年団の人たちがカスパ、バルバザール、メルヒョウに扮して家を訪れて歌をうたい、家のドアに“幸せな年になるように”という言葉を書いたチョークで書いてくれます。次の日にクリスマスツリーを片付けます。

2月はFasching (謝肉祭) です。仮装してパーティをします。この時にはFasnachtskuechle (ファスナットキューヒレ) というあげパンを作ります。

3月中旬になると、Ostern (イースター) の準備です。家ではOsterhase (うさぎ) のクッキーを焼き、大きな枝に

Osterei (色を付けたり絵を描いたりした卵の殻) をつるします。イースターの金曜日は肉は食べません。日曜日には色をつけたゆで卵と、うさぎのパンを焼いて食べます。イースターを終えると、ドイツは春を迎えます。

1987年に日本に戻り、生活に根付いたドイツのおいしい家庭のケーキを日本の皆さまにもご紹介したいと思っておりまして、1995年に鎌倉の寿福寺前に家を建てる事になり、ホームバーにと考えた部屋で、ケーキを出す事にしました。ですから、“ほたるのこみち”は8人もお客様がいらっしゃる満員となる本当に小さなお店です。

ここでは、いつも作っているチーズケーキに加えて、季節のくだものを使ったケーキを焼いています。季節のケーキは1月から5月はKirsch Kuchen (ダークチェリーのケーキ)。6、7月はJohnisbeerkuchen (赤すぐりのケーキ)。7月中旬から9月1週末までは夏休みになり、夏休みが終わるとZwetschkengucken (プルーンのケーキ) になります。10月中旬頃からはApfelkuchen (りんごのケーキ) になります。紅玉の甘い香りがひろがります。ドイツに住んでいた8年間と同じ様に毎年同じ季節に、このようなケーキ作っています。

日曜日と月曜日はお休みです。皆様のお越しをお待ち申し上げます。

(インターネットで「ほたるのこみち」で検索出来ます)

編集後記

会員の皆様、新年おめでとうございます。2011年が皆様にとってまた湘南日独協会にとっても良い年になるよう、三日には鎌倉八幡宮に参拝いたしました。午前中早めであつたのでスムーズに参拝出来ました。

2011年は織田会長の「年頭挨拶」にありますように、日独交流150周年の行事もめじろおしです。特に5月9日の湘南日独協会主催「日独音楽家の集い」は記念行事に相応しい出演者が揃います。是非皆様の友人、知人をお誘い頂き成功させたいと理事並びに会員の若林倅子さんと西川さんからなる特別委員会が準備を進めております。ご協力ご支援をお願い致します。

今年のお正月は荒天に悩まされた地域もありましたが、湘南は良い天気恵まれました。この湘南に関わる「鶴沼あれこれ」を岩崎英二郎先生にご寄稿頂きました。ゲーテから西行そして阿部昭へと大変密度の濃い内容で、短歌を趣味のひとつとしている編集子にとっては興味深いものでした。「砥上原」や「鳴立つ沢の大磯説」等インターネットで検索するのも楽しいことです。

湘南日独協会の運営上1月23日の定例総会は非常に重要です。多くの皆様が出席されますようお願い致します。勿論、協会の運営へのご希望等お気づきの点はいつもどうぞ遠慮なくお知らせ下さい。

Der Windの感想要望も是非お聞かせ下さい。

(大久保)

★★ 湘南日独協会のホームページ ★★

URL : <http://jdg-shonan.ciao.jp/index.html>

「全国日独協会一覧」からもアクセスできます。